

# 産科婦人科学

教	授	齋藤	藤村	滋樹
講	師	藤村	正樹	利子
講	師	酒井	正樹	利子
助	手	種部	恭子	雄彦
助	手	日高	隆敏	彦博
助	手(前)	道又	敏彦	
助	手(前)	津田	博	

## ◆ 著 書

- 1) 齋藤 滋, 酒井正利: 異常産褥の治療と管理 (母子感染の予防). 「新女性医学大系32 産褥」 萩田幸雄編, 178-190, 中山書店, 東京, 2001.
- 2) 齋藤 滋, 酒井正利, 種部恭子, 佐々木泰: 胎児の成長・発達 (胎児の機能的成熟) 「新女性医学大系22 正常妊娠」 神保利春編, 59-81, 中山書店, 東京, 2001.
- 3) 齋藤 滋, 酒井正利, 種部恭子: 妊娠・分娩・産褥と心身の変化 (浮腫) 「新女性医学大系」 木下勝之編, 149-159, 中山書店, 東京, 2001.
- 4) 齋藤 滋: 婦人科疾患B. 検体検査6免疫学的検査 「看護のための最新医学講座 19」 日野原重明編, 87-94, 中山書店, 東京, 2001.
- 5) 齋藤 滋: HTLV-I. 「性感染/HIV感染」 (財) 性の健康医学財団編, 236-239, メジカルビュー社, 東京, 2001.
- 6) 酒井正利, 齋藤 滋: 妊娠偶発合併症-自己免疫疾患-. 「看護のための最新医学講座」 日野原重明, 井村裕夫監修. 第15巻. 215-221. 中山書店, 東京. 2001.
- 7) 酒井正利, 齋藤 滋: 妊娠偶発合併症-血液疾患-. 「看護のための最新医学講座」 日野原重明, 井村裕夫監修. 第15巻. 222-229. 中山書店, 東京, 2001.
- 8) 日高隆雄, 寺西明子, 森川 肇, 赤田 忍, 齋藤 滋: 卵巣癌化学療法時の好中球接着分子の動態. 「コロニー刺激因子(CSF)の臨床-現状と将来-」 元吉和夫・浦部晶夫編, 183-188, 日本医学館, 東京, 2001.
- 9) 道又敏彦, 齋藤 滋: 子宮筋腫核出後の癒着防止 「産婦人科手術のコツ」 日本産婦人科手術学会編, 84-85, メジカルビュー社, 東京, 2001.

## ◆ 原 著

- 1) Fujimura M., Hidaka T., Kataoka K., Yamakawa Y., Akada S. and Teranishi A.: Absence of Estrogen Receptor- $\alpha$  Expression

in Human Ovarian Clear Cell Adeno-carcinoma Compared With Ovarian Serous, Endometrioid, and Mucinous Adenocarcinoma. *Am. J. Surg. Pathol.* 25:667-672, 2001.

- 2) Sakai M., Tanebe K., Sasaki Y., Monma K., Yoneda S. and Saito S.: Evaluation of the tocolytic effect of a selective cyclooxygenase-2 inhibitor in a mouse model of lipopolysaccharide-induced preterm delivery. *Mol. Hum. Reprod.* 7:595-602, 2001.
- 3) Hidaka T., Fujimura M., Sakai M. and Saito S.: Macrophage Colony-stimulating Factor Prevents Febrile Neutropenia Induced by Chemotherapy. *Jpn. J. Cancer Res.* 92: 1251-1258, 2001.
- 4) Tsuda H., Michimata T., Sakai M., Nagata K., Nakamura M. and Saito S.: A novel surface molecule of Th2- and Tc2-type cells, CRTH2 expression on human peripheral and decidual CD4<sup>+</sup> and CD8<sup>+</sup> T cells during the early stage of pregnancy. *Clin. Exp. Immunol.* 123:105-111, 2001.
- 5) Tsuda H., Sakai M., Michimata T., Tanebe K., Hayakawa S. and Saito S.: Characterization of NKT cells in human peripheral blood and decidual lymphocytes. *Am. J. Reprod. Immunol.* 45:295-302, 2001.
- 6) Kataoka K., Nakajima A., Takata Y., Saito S. and Huh N.: Screening for genes involved in tissue invasion based on placenta formation and cancer cell lines with low and high metastatic potential. *Cancer Letters* 163:213-219, 2001.
- 7) Namba Y., Hondo E., Morimoto M., Nakamura O., Kusakabe K., Ito M., Saito S., Sagara E. and Kiso Y.: A study of reproductive performance in pregnant, IL-2 receptor  $\beta$ -chain overexpressed transgenic mice. *J. Vet. Med. Sci.* 63:99-101, 2001.
- 8) Yoshino T., Kishi H., Nagata T., Tsukada K., Saito S. and Muraguchi A.: Differential involvement of p38 MAP kinase pathway and Bax translocation in the mitochondria-mediated cell death in TCR- and dexamethasone-stimulated thymocytes. *Eur. J. Immunol.* 31: 2702-2708, 2001.
- 9) 日高隆雄, 藤村正樹, 津田 博, 山川義寛, 齋

藤滋：化学療法時の感染症予防に対するG-CSFおよびM-CSFの効果についての検討。日産婦新生児血液会誌 10:37-47, 2001.

- 10) 日高隆雄, 津田 博, 齋藤 滋, 喜多敏明, 柴原直利, 寺澤捷年：漢方外来を当院産婦人科に開設して—更年期障害に対する漢方治療の効果について—。産婦人科漢方研究のあゆみ 18:60-63, 2001.
- 11) 内 尚子, 山川義寛, 日高隆雄, 藤村正樹, 齋藤 滋：子宮体がんにおける子宮頸がん検診歴と予後に関する検討。日産婦学会誌 53:973-979, 2001.
- 12) 道又敏彦, 宮崎聡美, 津田 博, 種部恭子, 齋藤 滋：当科における卵管鏡下卵管形成術（FTカテーテル）—クラミジア感染症とその治療成績について—。日産婦富山地方部会誌 15:9-13, 2000（2000年度追加）。
- 13) 酒井正利, 津田 博, 道又敏彦, 齋藤 滋：Th1/Th2バランスと妊娠中毒症。日本妊娠中毒症学会雑誌 8:87-90, 2000。（2000年度追加）症例報告
- 14) 種部恭子, 小出直哉, 酒井正利, 齋藤 滋：妊娠子宮による圧迫に起因した胃食道逆流症に対するエカベトナトリウムの使用経験。新薬と臨床 50:1067-1070, 2001.
- 15) 日高隆雄, 堀 慎一, 藤村正樹, 齋藤 滋：卵巣癌化学療法時の発熱性好中球減少症予防に対してM-CSF投与が有効であった症例。マクロファージフォーラム 8:273-275, 2001.

#### ◆ 総 説

- 1) Shigeru Saito: Cytokine cross-talk between mother and the embryo/placenta <Review>. J. Reprod. Immunol. 52:15-33, 2001.
- 2) 齋藤 滋, 藤村正樹, 酒井正利：絨毛細胞の増殖—分化とサイトカイン。細胞培養工学 27:316-319, 2001.
- 3) 齋藤 滋, 酒井正利：早産と免疫。日本医事新報 4042:12-18, 2001.
- 4) 齋藤 滋, 酒井正利：早産と絨毛膜羊膜炎。化学療法の領域 17:1051-1059, 2001.
- 5) 藤村正樹, 日高隆雄, 堀 慎一, 齋藤 滋「外陰上皮性悪性腫瘍の病理と進行期別治療について」4. 外陰癌の手術と併用化学療法産と婦 68:1129-1137, 2001.
- 6) 酒井正利, 齋藤 滋：絨毛膜羊膜炎の早期診断。産婦人科の実際 50:27-33, 2001.
- 7) 酒井正利, 日高隆雄, 齋藤 滋：産婦人科手術

のリスクに関する情報提供の実際。産婦人科の実際 50:461-466, 2001.

- 8) 種部恭子, 齋藤 滋：経口ホルモン薬による治療。臨床と薬物治療 20:114-119, 2001.
- 9) 種部恭子, 齋藤 滋：女性のQOLと子宮内膜症—経口ホルモン薬による治療。臨床と薬物治療 20:114-119, 2001.
- 10) 齋藤 滋：ウイルスと母子感染。産婦人科治療 82:407-413, 2001.
- 11) 齋藤 滋：母子感染免疫の意味。周産期医学 31:521-525, 2001.
- 12) 齋藤 滋：妊娠の成立維持にかかわる免疫学—周産期と免疫（分娩を中心として）—。産婦人科の世界 53:161-169, 2001.
- 13) 齋藤 滋, 酒井正利, 藤村正樹：サイトカイン。周産期医学増刊号 31:42-43, 2001.
- 14) 齋藤 滋：レクチャーシリーズ3.早産と免疫。日本産科婦人科学会誌 53:N195-N199, 2001.
- 15) 齋藤 滋：胎児の免疫能と感染防御「ヘルペスウイルスの母子感染とその対策」。ヘルペス感染症研究会誌 19-22, 2001.
- 16) 酒井正利, 齋藤 滋：早産予防とCOX-2阻害剤。産婦人科治療 82:532-536, 2001.
- 17) 酒井正利, 齋藤 滋：切迫早産治療における硫酸マグネシウムの有用性および安全性。産婦人科の実際 50:619-622, 2001.
- 18) 酒井正利, 齋藤 滋：早産・切迫早産・PROM症例での羊水診断。周産期医学 31:1037-1041, 2001.
- 19) 酒井正利, 齋藤 滋：切迫早産治療における硫酸マグネシウム投与の有用性と安全性について。産婦人科の世界 50:903-908, 2001.

#### ◆ その他

- 1) 種部恭子：低用量ピル使用の最新の話—10代女性と低用量ピル。メディカメント・ニュース1704:6-8, 2001.
- 2) 種部恭子：ピルについて—QOL向上を目的とした服用者へのアドバイス。日母産婦人科医報 53:16, 2001.
- 3) 日高隆雄, 家城匡博, 齋藤 滋：パクリタキセルによる筋肉痛に対する芍薬甘草湯の効果—臨床的および基礎的検討—。日経メディカル 407:34-35, 2001.

#### ◆ 学会報告

- 1) Saito S, Tsuda H. and Michimata T.: Distribution of Th1 and Th2 Cells at Implantation Site in Human. 8th International Con-

- gress of Reproductive Immunology, 2001, 7, Croatia. <Invited>
- 2) Sakai M., Tsuda H., Tanebe K., Sasaki Y. and Saito S.: Decreased Interleukin (IL)-12 Secretion in Normal Pregnancy Subjects and Increased IL-12 Secretion in Preeclamptic Patients by Peripheral Blood Mononuclear Cells. 8th International Congress of Reproductive Immunology, 2001, 7, Croatia.
  - 3) Michimata T., Miyazaki S., Tsuda H., Tanebe K. and Saito S.: Expression and Localization of Th2 Chemo-kine Receptor (CRTH2) on Decidual Lymphocytes. 8th International Congress of Reproductive Immunology, 2001, 7, Croatia.
  - 4) Tsuda H., Michimata T., Tanebe K. and Saito S.: Distribution of CCR4+ T Cells on Decidual Lymphocytes. 8th International Congress of Reproductive Immunology, 2001, 7, Croatia.
  - 5) Hayakawa S., Saito S. and Yamamoto T.: Murine Experimental Models of Fetal Resorption and Preeclampsia Caused by Both Excessive Th1 and Th2 Activation. 8th International Congress of Reproductive Immunology, 2001, 7, Croatia.
  - 6) Fujimura M., Yamakawa Y., Hidaka T., Kataoka K., Saito S.: Ovarian clear cell adenocarcinoma: Establishment of new treatment strategy using EGF-R-TKI (epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitor). 92th. American Association for Cancer Research Annual Meeting, 2001, 3, LA, USA.
  - 7) 斎藤 滋: 炎症と早産. 第13回富山県母性衛生学会会長講演, 2001, 2, 富山.
  - 8) 斎藤 滋: 女性と骨粗鬆症. 朝日町連合婦人会特別講演, 2001, 3, 富山.
  - 9) 斎藤 滋: 胎児の免疫能と感染防御「ヘルペスウイルスの母子感染とその対策」. JHIF WORK SHOP, 2001, 3, 三重.
  - 10) 斎藤 滋: 周産期における免疫. 第88回鹿児島市立病院周産期センター新生児セミナー特別講演, 2001, 9, 鹿児島.
  - 11) 斎藤 滋: 炎症反応からみた早産. 平成13年度奇松会(浜松市産婦人科医会)特別講演, 2001, 9, 浜松.
  - 12) 斎藤 滋: 富山県での早産予防の試み. 第28回日産婦人科大会教育講演, 2001, 10, 富山.
  - 13) 斎藤 滋: 免疫の立場からみた習慣流産—正常妊娠との対比—. 第46回日本不妊学会ランチョンセミナー, 2001, 11, 東京.
  - 14) 斎藤 滋: 炎症からみた早産. 日産婦人母群馬県支部集団会特別講演, 2001, 11, 群馬.
  - 15) 斎藤 滋: 炎症からみた周産期医療. 第100回長野県周産期カンファランス特別講演, 2001, 12, 長野.
  - 16) 斎藤 滋: 早産の病態と予防・治療. 第6回茨城県水戸周産期懇話会特別講演, 2001, 12, 茨城.
  - 17) 斎藤 滋: 炎症と早産. 第51回日産婦高知地方部会学術集会特別講演, 2001, 12, 高知.
  - 18) 斎藤 滋: オーバービュー「子宮内膜症とは」. 日産婦学会公開講座, 2001, 11, 富山.
  - 19) 藤村正樹: 子宮頸部腺系病変総論—子宮頸部病変の臨床と形態診断— 平成13年度日本臨床細胞学会富山県支部成人病検診従事者ワークショップ特別講演, 2001, 7, 富山.
  - 20) 種部恭子: 若者の性と健康について. 小矢部市総合保健福祉センター健康講座, 2001, 3, 富山.
  - 21) 種部恭子: 更年期の女性の健康. 平成13年度内灘町健康教育講演会, 2001, 3, 金沢.
  - 22) 種部恭子: 思春期の性について. 富山県中部保健所八尾支所思春期保健事業講演会, 2001, 3, 富山.
  - 23) 種部恭子: 更年期・老年期の女性の健康. 平成13年度入善女性団体連絡会総会記念講演会, 2001, 4, 富山.
  - 24) 種部恭子: 産婦人科との上手な付き合い方. 石川県女性センター市民企画講座, 2001, 7, 石川.
  - 25) 種部恭子: 性感染症と女性用コンドームについて. 平成13年度富山県母子保健指導者研修会, 2001, 8, 富山.
  - 26) 種部恭子: 更年期を健やかに. 平成13年度福光町健康増進大学講座, 2001, 9, 富山.
  - 27) 種部恭子: 性感染症について. 平成13年度日本助産婦会東海北陸ブロック研修会, 2001, 9, 富山.
  - 28) 種部恭子: 女性の健康—中高年期を健やかに—. 平成13年度富山県中部保健所生涯を通じた女性の健康支援事業講演会, 2001, 10, 富山.
  - 29) 種部恭子: 思春期の心と体. 富山市教育委員会中学校専門医保健講座, 2001, 11, 富山.
  - 30) 種部恭子: 大切な命—思春期の生と性—. 小矢部市保健講座, 2001, 11, 富山.
  - 31) 種部恭子: 中学生の性について. 富山県中部保

- 健所思春期保健事業講演会, 2001, 11, 富山.
- 32) 藤村正樹, 片岡 健, 日高隆雄, 山川 義, 齋藤 滋: 薬剤耐性卵巣癌である卵巣明細胞腺癌に対するEGF-Rのチロシンリン酸化阻害剤 (ZD 1839) を用いた新たな治療戦略. 第3回癌治療増感研究シンポジウム, 2001, 2, 奈良.
- 33) 藤村正樹: 子宮内膜症とがん. 日本産科婦人科学会公開講座「子宮内膜症について」, 2001, 11, 富山.
- 34) 種部恭子: リプロダクティブヘルスからみた子宮内膜症. 日本産科婦人科学会公開講座「子宮内膜症について」, 200, 11, 富山.
- 35) 酒井正利, 米田 哲, 佐々木泰, 種部恭子, 齋藤 滋: 当科における先天性心疾患の搬送状況. 平成13年度日本産科婦人科学会富山地方部会シンポジウム, 2001, 9, 富山.
- 36) 酒井正利, 立松美樹子, 米田 哲, 佐々木泰, 種部恭子, 二谷 武, 八木信一, 齋藤滋. 羊水持続補充療法が奏功した早期preterm PROMの2症例. 第15回北陸未熟児・新生児研究会シンポジウム, 2001, 10, 石川.
- 37) 日高隆雄, 内 尚子, 堀 慎一, 藤村正樹, 齋藤 滋: 化学療法時の感染症予防に与えるG-CSFおよびM-CSFの効果についての検討—化学療法時にM-CSFを併用すると感染症(好中球減少性発熱)を予防するが, G-CSFにはその作用がない—. 第3回北信越立山セミナーシンポジウム, 2001, 8, 福井.
- 38) 米田 哲, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 小林康祐, 住田由美, 須波 玲, 齋藤 滋: 低酸素性虚血性脳症の出生早期における血中イオン化カルシウムの変化. 日本脳低温療法研究会シンポジウム, 2001, 7, 山口.
- 39) 藤村正樹: 卵巣腫瘍病理検討会基調講演. 日本産科婦人科学会富山地方部会第19回卵巣腫瘍病理検討会, 2001, 6, 富山.
- 40) 藤村正樹, 堀 慎一, 日高隆雄, 齋藤 滋: 婦人科領域における難治性卵巣癌(明細胞腺癌)に対する分子標的薬剤を用いた新たな治療戦略第19回ヒト細胞学会ワークショップ, 2001, 8, 所沢.
- 41) 酒井正利, 佐々木泰, 渡辺弘道, 林 崇, 種部恭子, 齋藤 滋: 当科で管理された妊娠32週以降のpreterm PROMと新生児予後に関する検討. 第4回富山県母子医療研究会, 2001, 1, 富山.
- 42) 佐々木泰, 酒井正利, 渡辺弘道, 林 崇, 高木紀美代, 種部恭子, 齋藤 滋: 当科で管理された妊娠32週以前のpreterm PROMと新生児予後に関する検討. 第13回富山県母性衛生学会, 2001, 2, 富山.
- 43) 藤村正樹, 家城匡博, 片岡 健, 日高隆雄, 山川義寛, 齋藤 滋: 卵巣明細胞腺癌に対するEGF-Rのチロシンリン酸化阻害剤 (IressaTM) を用いた新たな治療戦略の開発. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 44) 家城匡博, 藤村正樹, 片岡 健, 日高隆雄, 山川義寛, 齋藤 滋: 卵巣明細胞腺癌に対するHER2/neuのヒト型モノクローナル抗体 (Herceptin TM) を用いた新たな治療戦略の開発. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 45) 米田 哲, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 小林康祐, 住田由美, 須波 玲: 頭部の位置が新生児の脳組織血液量と脳血流速度に及ぼす影響. 日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 46) 片岡 健, 齋藤 滋: 胎盤形成と転移能に差を認める癌細胞株を利用した新たな転移関連遺伝子の検出. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 47) 津田 博, 道又敏彦, 種部恭子, 齋藤 滋: 脱落膜リンパ球のNKT細胞についての検討. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 48) 結城浩良, 堂下真樹子, 伏木 弘, 藤村正樹, 齋藤 滋: 子宮頸癌細胞株を用いたフリーラジカル発生剤による温熱誘発アポトーシスの増強効果の検討. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 49) 日高隆雄, 津田 博, 藤村正樹, 山川義寛, 齋藤 滋: 化学療法時の感染症予防に与えるG-CSF, M-CSFの効果について. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 50) 堀 慎一, 齋藤 滋: 臍帯血CD14およびCD34陽性細胞からの樹状細胞誘導と抗原提示能についての検討. 第53回日本産科婦人科学会学術講演会, 2001, 5, 札幌.
- 51) 酒井正利, 津田 博, 道又敏彦, 種部恭子, 宮崎聡美, 齋藤 滋: Th1/Th2バランスと妊娠中毒症の関連性についての検討. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 52) 種部恭子, 宮崎聡美, 津田 博, 齋藤 滋: IL-2 受容体γ鎖ノックアウトマウスにおける生殖性ならびに妊孕性に関する研究. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 53) 宮崎聡美, 種部恭子, 米田 哲, 酒井正利, 齋藤 滋: 早産児, IUGR児の顆粒球, 単球におけるG-CSF受容体の発現と好中球殺菌能, 貪食能に

- についての検討. 第53回日本産科婦人科学会総会, 2001, 5, 札幌.
- 54) 日高隆雄, 阪部江里子, 津田 博, 喜多敏明, 柴原直利, 寺澤捷年, 齋藤 滋: 更年期障害に対する産婦人科漢方外来の現況. 第29回日本産科婦人科学会北陸連合地方部会, 2001, 6, 新潟.
- 55) 内 尚子, 藤村正樹, 日高隆雄, 堀 慎一, 齋藤 滋: ラット胃幽門腺粘液に対するモノクローナル抗体 (HIK1083) 検査にて早期に鑑別し得た子宮頸部悪性腺腫 (Adenoma malignum) の1例. 第29回日産婦北陸連合地方部会, 2001, 6, 新潟.
- 56) 立松美樹子, 種部恭子, 佐々木泰, 酒井正利, 齋藤 滋: 早期preterm PROMに対する羊水補充療法が奏効した2症例. 第29回日産婦北陸連合地方部会, 2001, 6, 新潟.
- 57) 堀 慎一, 齋藤 滋, 高上 洋一: 臍帯血CD34およびCD14陽性細胞からの樹状細胞誘導とその抗原提示能についての検討. 第11回日本産婦人科・新生児血液学会, 2001, 6, 宇都宮.
- 58) 道又敏彦, 津田 博, 種部恭子, 齋藤 滋: 脱落膜リンパ球のTh2ケモカインレセプター (CRT H2) の発現および局在に関する検討—着床部と非着床部での比較—. 第38回日本不妊学会北陸支部学術集会, 2001, 6, 金沢.
- 59) 道又敏彦, 津田 博, 種部恭子, 齋藤 滋: Th 1/Th2バランスがマウス黄体機能に与える影響についての検討. 第19回日本受精着床学会, 2001, 7, 横浜.
- 60) 酒井正利, 佐々木泰, 種部恭子, 齋藤 滋: 子宮頸管粘液中のIL-8高値例に対する早期治療と早産率の減少についての前方視的研究. 第37回日本新生児学会総会, 2001, 7, 横浜.
- 61) 佐々木泰, 酒井正利, 二谷 武, 高木紀美代, 齋藤 滋: 当科で管理された妊娠32週以前のpreterm PROMと新生児予後に関する検討. 第37回日本新生児学会総会, 2001, 7, 横浜.
- 62) 米田 哲, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 小林康祐, 住田由美, 須波 玲, 齋藤 滋: 低酸素性虚血性脳症(HIE)における血中イオン化カルシウムの変化. 日本新生児学会, 2001, 7, 横浜.
- 63) 立松美樹子, 種部恭子, 佐々木泰, 酒井正利, 齋藤 滋: 羊水持続補充療法が奏効した早期PROMの2症例. 第37回日本新生児学会, 2001, 7, 横浜.
- 64) 藤村正樹, 日高隆雄, 堀 慎一, 齋藤 滋: 卵巣明細胞腺癌に対するEGF-Rの特異的チロシンリン酸化阻害剤 (ZD1839:IressaTM) を用いた新たな治療戦略 第30回婦人科腫瘍学会, 2001, 7, 横浜.
- 65) 日高隆雄, 堀 慎一, 藤村正樹, 齋藤 滋: 子宮頸部初期病変に対するLEEP conization後の経過観察成績. 第30回婦人科腫瘍学会, 2001, 7, 横浜.
- 66) 米田 哲, 酒井正利, 佐々木泰, 種部恭子, 齋藤 滋: 母体IVH管理中に, 胎児硬膜下血腫を発症した1症例. 日本産婦人科学会栄養代謝研究会, 2001, 7, 大阪.
- 67) 小出直哉, 齋藤 滋: 帝王切開術後に汎発性腹膜炎, SIRSを発症し, 持続的血液濾過透析 (CHDF) が有効であった1症例. 第3回北信越立山セミナー, 2001, 8, 福井.
- 68) 結城浩良, 近藤 隆, 田辺清司, 小川良平, 趙慶利, 中島彰俊, 伏木 弘, 藤村正樹, 齋藤 滋: 温度依存性フリーラジカル発生剤による子宮頸癌細胞株における温熱誘発アポトーシスの増強効果の検討. 北陸温熱療法懇話会, 2001, 8, 富山.
- 69) 結城浩良, 近藤 隆, 田辺清司, 趙慶利, 藤村正樹, 齋藤 滋: 子宮頸癌細胞株におけるフリーラジカル発生剤による温熱誘発アポトーシスの増強. 第60回日本癌学会, 2001, 9, 横浜.
- 70) 日高隆雄, 家城匡博, 藤村正樹, 倉石 泰, 齋藤 滋: Paclitaxel誘発筋肉痛/痛みマウスモデルの作製と芍薬甘草湯の効果についての検討. 第21回産婦人科漢方研究会, 2001, 9, 東京.
- 71) 内 尚子, 藤村正樹, 日高隆雄, 堀 慎一, 齋藤 滋: 難治性卵巣癌および腹膜原発腺癌 (PSPC) に対し, CPT11+MMC療法が効果を示した2例. 第49回日産婦北日本連合地方部会総会, 2001, 9, 仙台.
- 72) 堀 慎一, 津田 博, 齋藤 滋: 臍帯血CD34およびCD14陽性細胞からの樹状細胞誘導とその抗原提示能についての検討. 日本産婦人科学会北日本連合地方部会, 2001, 9, 仙台.
- 73) 佐々木泰, 酒井正利, 米田 哲, 種部恭子, 齋藤 滋: 新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN) に対し, 体外膜型人工肺 (ECMO) が奏功した先天性横隔膜ヘルニアの1症例. 日本産婦人科学会北日本連合地方部会, 2001, 9, 仙台.
- 74) 塩崎有宏, 片岡 健, 藤村正樹, 齋藤 滋: ヒト胎盤, 絨毛癌細胞株および絨毛細胞株におけるsurvivinの発現とアポトーシスの制御に関する検討. 第9回日本胎盤学会学術集会, 2002, 10, 大

阪.

- 75) 藤村正樹, 津田 博, 宮崎聡美, 内 尚子, 日高隆雄, 堀 慎一, 斎藤 滋: 子宮体癌細胞株に対するEGF-Rチロシンリン酸化阻害剤 (ZD1839: IressaTM) の及ぼす増殖抑制効果. 第39回日本癌治療学会, 2001, 11, 広島.
- 76) 内 尚子, 藤村正樹, 日高隆雄, 堀 慎一, 斎藤 滋: Paclitaxel 腹腔内投与後の血中Paclitaxel濃度. 第39回日本癌治療学会総会, 2001, 11, 広島.
- 77) 米田 哲, 酒井正利, 山岸直子, 佐々木泰, 種部恭子, 二谷 武, 八木信一, 斎藤 滋: 当院で管理された先天性心疾患の現状. 北陸先天異常研究会, 2001, 11, 富山.
- 78) 米田 哲, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹: 帽状腱膜下血腫による出血性ショックにて死亡した新生児Bernard-Soulier症候群の1例. 未熟児新生児学会, 2001, 11, 横浜.
- 79) 堀 慎一, 津田 博, 宮崎 聡美, 高上 洋一, 斎藤 滋: 臍帯血CD34陽性細胞から誘導した樹状細胞は抗原特異的CTLを誘導する. 第16回日本生殖免疫学会, 2001, 12, 東京.
- 80) 宮崎聡美, 津田 博, 堀 慎一, 斎藤 滋: 妊娠初期脱落膜における樹状細胞サブセットに関する研究. 第16回日本生殖免疫学会, 2001, 12, 東京.
- 81) 佐々木 泰, 道又敏彦, 津田 博, 斎藤 滋: p rostaglandin D2に誘導されCRTH2陽性Th2およびTc2細胞が着床部位に集簇する. 第16回日本生殖免疫学会総会, 2001, 12, 東京.

## 眼 科 学

教 授	早 坂 征 次
助 教	門 井 千 春
講 師	松 本 真 幸
講 師	長 木 康 典
助 手	渡 辺 一 彦
助 手	柳 沢 秀 一 郎
助 手	張 早 坂 依 里 子
助 手	遠 藤 好 美
助 手	遠 藤 真 知
助 手 (前)	北 川 清 隆
助 手 (前)	岩 佐 芳 夫
技術専門職員	林 由 美 子

### ◆ 原 著

- 1) Ikeda N., Hayasaka S., Nagaki Y., Hayasaka Y., Kadoi C., and Matsumoto M.: Effects of traditional Sino-Japanese herbal medicines on aqueous flare elevation after small-incision cataract surgery. *J. Ocular Pharmacol. Therap.*, 17:59-65, 2001.
- 2) Nagaki Y., Hayasaka S., Kadoi C., Matsumoto M., Nakamura N., and Hayasaka Y.: Effects of Orengedoku-to and Senkanmeimokuto, traditional herbal medicines, on the experimental elevation of aqueous flare in pigmented rabbits. *Am. J. Chin. Med.*, 29: 141-147, 2001.
- 3) Watanabe K., Numata-Watanabe K., and Hayasaka S.: Methicillin-resistant Staphylococci and ofloxacin-resistant bacteria from clinically healthy conjunctivas. *Ophthalmic Res.*, 33:136-139, 2001.
- 4) Nagaki Y., Hayasaka S., Kadoi C., Nakamura N., and Hayasaka Y.: Effects of Scutellariae radix extract and its components (baicalein, baicalin, and wogonin) on the experimental elevation of aqueous flare in pigmented rabbits. *Jpn. J. Ophthalmol.*, 45: 216-220, 2001.
- 5) Watanabe K., Hayasaka S., Hiraki S., Matsumoto M., Kadoi C., and Nagaki Y.: Effects of  $\alpha$ 2-adrenergic agonists on lipopolysaccharide-induced aqueous flare elevation in pigmented rabbits. *Jpn. J. Ophthalmol.*,